

# 平成19年度戸田市まちづくり戦略会議提言書

## 水辺のあるまち戸田

### 目次

はじめに	・・・	1
第1章 戸田の水辺の現状	・・・	2
第2章 水辺のあるまち戸田の今後の方向性（コンセプト）	・・・	3
第3章 視点	・・・	3
①水辺から水辺へ歩いて行けるまちづくり	・・・	4
②市内を回って、一日楽しく過ごせるまちづくり	・・・	7
③水辺を取り巻く周辺との美しい街並みの形成	・・・	11
④水辺を利用した人々が集まるイベントの開催	・・・	13
第4章 参考資料：戸田市の水辺資源	・・・	18
第5章 戸田市まちづくり戦略会議	・・・	22

## はじめに

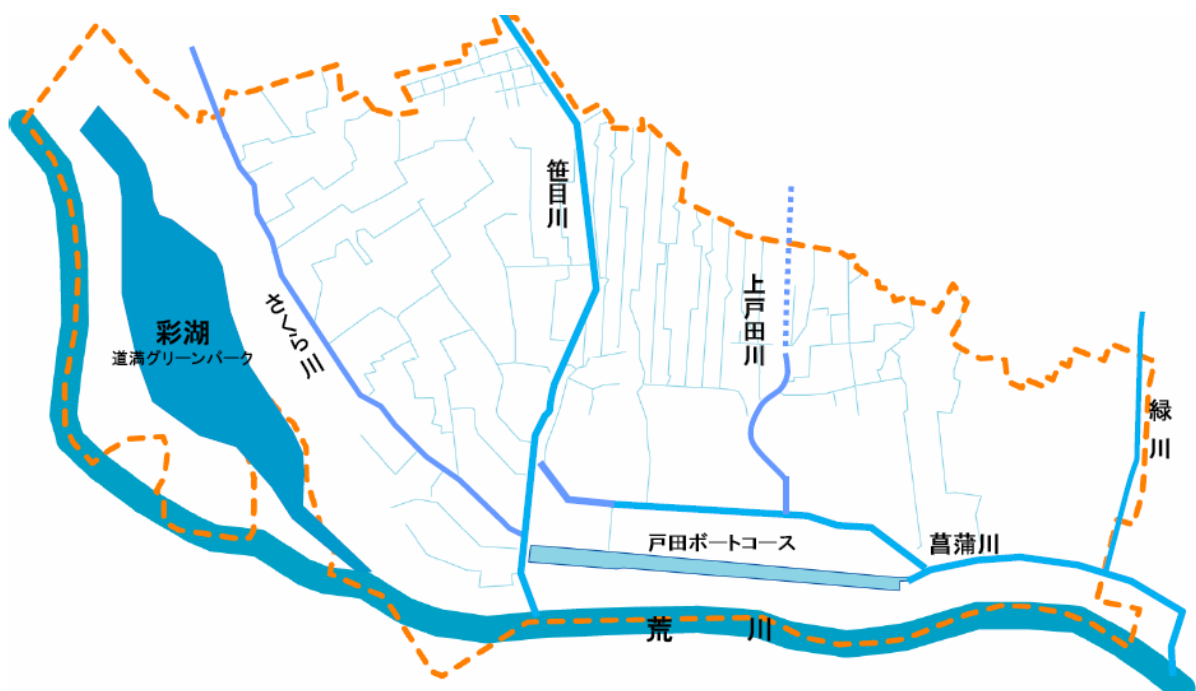
戸田市の西から南へ、笹目橋から東に向きをかえ、戸田を包むように荒川が流れています。戸田の水辺といえば、まず荒川が連想されることでしょう。

戸田を流れる荒川は、江戸時代には荒川を渡るための戸田渡船場として、大名をはじめ旅人や商人から馬や荷物まで、多くの利用があり、賑わいの場となっていました。また、荒川は流れの蛇行が激しいため、大雨が降ると氾濫を起こし、沿岸に住む人々に、被害を与えてきました。一方、氾濫が肥沃な土をもたらすこともありました。荒川は戸田の人々の生活と、密接な関係をもってきました。

幾度にわたる河川改修により、穏やかになった荒川に、笹目川、さくら川、上戸田川、菖蒲川、緑川など多くの河川が注いでいます。

河川にきれいな水が流れ、憩える場所が増えれば、それが人の流れを作り、まちの活気をはぐくむ。人々の関心が、身近にある自然に向かいだしています。まさに今は、水辺をキーワードに、市民が楽しめる賑わいを創出することを考える、絶好の機会といえるでしょう。水辺の個性を引きだして、戸田の魅力とするために、まちづくり戦略の一つとして、「水辺のあるまち戸田」を計画的に進めることを提言します。

### 『戸田市を流れる河川』



## 第1章. 戸田の水辺の現状

市内河川の流域は、戸田市、さいたま市、川口市及び蕨市の人口が集中する地域から構成されている。これらの地域は急速に都市化したが、生活排水や工場排水などの汚水処理が追い付かず、笹目川、さくら川、上戸田川、菖蒲川、緑川などの市内河川は、水質汚濁が進行した。かつては、経済的な豊かさを追い求める生活スタイルに向き過ぎていたため、河川の水質が悪化してもあまり省みられず、水辺に人々の関心が向かなくなっていき、水辺は人々から離れた存在となっていた。

このような状況の中、市は河川断面の拡大や護岸の整備など、浸水対策に重点を置き、早い段階からその時々ニーズを満たすべく整備に取り組んできた。かつては良かったものが、時代の変化と共に、市民のニーズとの間に徐々にギャップとなり始めたこともあった。近年になって、戸田市には水辺関連施設がいくつか造られたものの、それぞれが施設単体の整備であり、「点」で終わってしまっていた。また、資源でありながら、見過ごされている水辺もあった。このように、豊富にある水辺資源の個性が十分に発揮できず、あまり利活用されていないのが現状である。

しかしながら、現在は、下水道の整備をはじめとした都市基盤整備や、悪臭やごみのない快適な川面の確保、生物生息環境の確保、親しみやすい水辺空間の確保を目標とした、国土交通省の「第二期水環境改善緊急行動計画」（通称：清流ルネッサンスⅡ）の取組みにより、水辺にとって最も重要な水質が徐々に改善してきている。そして、人々のニーズが、生活へのゆとり、自然とのふれあいを求めることにシフトしていることにより、心の潤いを与えてくれる水辺が、人々の関心の対象として、再び身近な存在となりつつある。

清流を取り戻しつつある河川や水辺資源など、戸田市は人々に安らぎや楽しみをもたらす自然の宝庫となっている。市民がのんびりと、楽しく、ゆったりと戸田を満喫しながら過ごすことができる「水辺のまちづくり」を、考えていくことが必要である。

## 第2章. 水辺のあるまち戸田の今後の方向性(コンセプト)

戸田市の特徴を年齢的な面から見てみると、埼玉県の中で平均年齢の若い都市となっている。活力あるまちであり続けるために、「戸田市に住みたい」、「戸田がふるさと」となるよう、市民のニーズを満たし、また戸田市のブランドとして広くアピールができ「水辺のあるまち戸田」を進めていく。

戸田の水辺の現状と課題を踏まえ、既存の資源を生かしながら、また、必要に応じて新規に整備を行いながら、ライフスタイルにあわせた用途や様相につくりかえていく。戸田の水辺が目指すコンセプトは以下の通りである。

### ●子どもからお年寄りまで楽しく過ごせる水辺

市民がそれぞれの立場で、水辺を楽しく、心地よく過ごせるように、必要な取組みを行う。

### ●つながりのある面や線の整備

戸田公園周辺を中心に、上戸田地区、下戸田地区、新曽地区、笹目地区、美女木地区のエリアに分ける。河川や既存の水辺施設を活用し、また新たな整備することによって、個々の水辺資源がつながりを持ち、地域に根付いた取組みを行う。

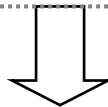
## 第3章. 視点

コンセプトを実現するために、次の4つの視点からエリアごとの具体的な構想を掲げる。

1. 水辺から水辺へ歩いて行けるまちづくり  
(水辺のネットワークの形成)
2. 市内を回って、一日楽しく過ごせるまちづくり  
(地域ごとのテーマをもった整備)
3. 水辺を取り巻く周辺との美しい街並みの形成  
(うるおいのある都市空間の形成)
4. 水辺を利用した人々が集まるイベントの開催  
(人と人とが触れ合える場の形成)

## ①. 水辺から水辺へ歩いて行けるまちづくり

### (水辺のネットワークの形成)



#### 《コンセプトに基づく考え方》

何らかの特別な交通手段に頼らず、だれにでもアクセスしやすい手段、つまり徒歩で、子どもからお年寄りまで、水辺を楽しむことができるまちづくりを進める。のんびりと楽しく過ごせるように、今ある戸田市の資源を生かし、河川、道路、歩道、公園、公共施設、民有地等との連携により、水辺のネットワークの形成を図る。

戸田市内を見てみると、上戸田地区に水辺関連施設が多く見られる。水辺をキーワードにそれぞれの施設を結びつけるようなしくみをつくる。水辺を結びつけることで、人が集まり、賑わいが創出されることを目的とする。

#### 上戸田地区 後谷公園・東町公園区域

#### 《現状と課題》

上戸田地区には、上戸田4丁目水路、池のある後谷公園、ピラミッド型の噴水のある東町公園がある。水をキーワードに3つの施設が、至近距離に存在しているものの、それぞれが独立している。後谷公園は、休日になると、子どもからお年寄りまで、市民でにぎわっている。池には季節の花が咲き、緑ある水辺空間になっている。東町公園は、噴水で遊ぶ子どもの姿が多く見られ、人気のある公園である。上戸田4丁目水路は、200メートル程度の整備となっており、部分的に作られた水路という感じを受け、水辺が分断されている印象が否めない。

後谷公園や東町公園で、特色あるイベントなどを行うことによって、さらに人が集まると考えられる。商店会主催で行われるナイトバザール、冬期のイルミネーションなど、これらの取組みとタイアップし賑わいを創出する。また、上戸田4丁目水路は、後谷公園まで延長するような一体的な再整備を実施し、水辺につながりを持たせる。

《実施のための方法》

- 季節ごとにライトアップを行う。
- 後谷公園で夕涼みコンサートを開催する。
- 文化会館とタイアップしオープンカフェを実施する。
- 商店会が行っているナイトバザールとタイアップし、賑わいの場を創出する。
- 上戸田4丁目水路を後谷公園まで延長し、水辺をつなぐ。



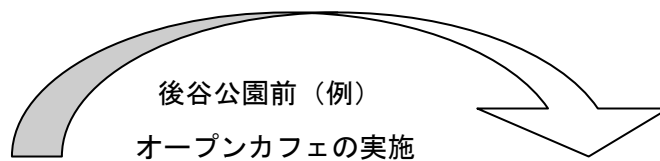
後谷公園前



東町公園



上戸田4丁目水路



後谷公園前 (例)  
オープンカフェの実施



## 実施にかかる許可要件等

### ① 道路占用許可

道路上に物件を設置し、継続して道路を使用する場合には、道路法第 32 条に基づき、道路管理者の許可。

### ② 道路使用許可

イベントなどで道路を使用する場合には、道路交通法第 77 条に基づき、所轄警察署長の許可。

### ③ 公園使用許可

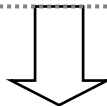
イベントなどで公園内を使用する場合には、都市公園条例第 3 条第 1 項、都市公園内行為の許可。

### ④ 食品営業許可

飲食店や喫茶店などの営業を行う場合や乳類や魚介類などの販売を行う場合には、食品衛生法第 52 条に基づき、その営業所所在地を管轄する県知事の許可。

※参考資料 「道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドライン」平成 17 年 3 月国土交通省

## ②. 市内を回って、一日楽しく過ごせるまちづくり (地域ごとのテーマをもった整備)



### 《コンセプトに基づく考え方》

戸田市内で水辺や景色を楽しみながら、一日をのんびりと過ごせるようなまちづくりをすすめる。市内をエリアに区切り、それぞれのエリアの住民、活動団体等の意見を積極的に取り入れた整備を行う。

戸田市内を見てみると、笹目地区、美女木地区、新曽地区に流れるさくら川や笹目川に、桜並木や遊歩道が整備されており、市民が一日楽しく過ごすことができる可能性が秘められている。そこで、これらの資源を生かし、市民グループ、NPO等によるアダプトプログラムを実施し、地域独自の植栽活動、清掃活動に対する支援体制を推進することで、水辺周辺を一日楽しく過ごせるように演出する。

### 笹目・美女木地区：さくら川・笹目川沿いに花をテーマにした市民参加

## 「 さくら川 」

### 《現状と課題》

さくら川の両岸は、桜並木が続き、桜の開花時には多くの花見客で賑わいをみせている。しかし、成長した桜の木は、葉がうっそうと生い茂り、花見の時期以外では昼間でも暗さを感じさせ、夜などは歩くことも敬遠されがちである。

そこで、明るく、安全・安心な水辺の遊歩道として、子どもからお年寄りまで楽しく過ごせるように、バリアフリーやユニバーサルデザイン等のコンセプトを取り入れ、整備を行う。また、地域の住民や企業に、花の植栽などに参加してもらおう。それぞれの地域ごとの特色が市民を楽しませ、水辺を一日楽しく過ごすことにつながる。



### 《実施のための方法》

- 川の流域をいくつかのエリアに分け、地域住民や企業が参加し、テーマを持った花などを植える。清掃から管理までを地域で行う。
- 荒川水循環センターの上部利用とつながりを持たせる。
- アダプトプログラム制度(※1)の実施や埼玉県水辺の里親制度(※2)の推進を図る。

(※1)アダプトプログラム制度：地域の住民が指定エリアの里親となり、清掃活動や美化活動をすることで、その土地への愛着を育む。地域コミュニティの創出や、小中学生の総合学習の場として利用され、また、企業の地域貢献の一環として採用され、全国的に広がりを見せている。

(※2)埼玉県水辺の里親制度：アダプトプログラムと同様の試みで、県が実施している。里親、市町村、県との間で協定を結ぶ。県は活動時の保険や活動にかかる消耗品の支給などを行い、市町村はごみの収集等で協力する。

### 「さくら川整備例」



さくら川上流部  
護岸遊歩道  
の延長整備



さくら川下流部

### 《エリアごとの植栽例》



プランター植栽や  
花壇の設置



## 「 笹目川 」

### 《現状と課題》

笹目川をはじめ戸田市の護岸整備は一貫性に乏しく、市内下流部は拡幅され人工的なコンクリート護岸となっている。上流部では、雑草が生い茂り、コンクリート整備のため、冷たい印象を受ける。河川に立ち入らないようにするフェンスにはさびが発生し、近づきがたい雰囲気がある。

さいたま市側上流部のような多自然型整備の実施と、川幅の景観を生かした遊歩道整備を行う。これらの整備によって、子どもからお年寄りまで、市民がいつでも、安全に、散歩や憩うなど、思いおもいのスタイルで楽しむことができるようになる。

### 《実施のための方法》

- さいたま県土整備事務所に多自然型護岸の整備を働きかける。
- 市の土地区画整理事業による笹目川左岸整備計画(※)により、新たな水辺の創出を図る。
- アダプトプログラム制度の実施や、埼玉県水辺の里親制度の活用を推進する。

(※)笹目川左岸整備計画：多年にわたり地域住民・団体・有識者とのワークショップを開催している。公園から遊歩道につながるデザインなどについて、話を詳細に進めている。



さいたま市側笹目川護岸



ウッド調の人道橋

ウッドデッキやベンチ、フェンスや人道橋、遊歩道に至るまで木材を使用した統一感のある整備がされたさいたま市側上流部の橋と遊歩道

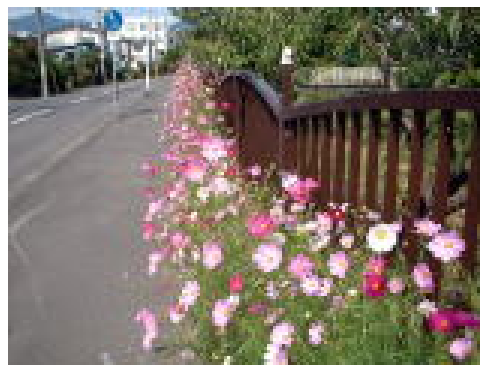
## 「笹目川整備例」



現在の笹目川と遊歩道の様子  
歩道やベンチ等の整備はできているが、錆びた  
フェンスや雑草などにより景観を損ねている。



コンクリート護岸により殺風景となっている。



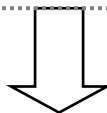
遊歩道脇にも季節の植栽の実施



潤いのある多自然型護岸整備

### **③. 水辺を取り巻く周辺との美しい街並みの形成**

#### **(うるおいのある都市空間の形成)**



#### **《コンセプトに基づく考え方》**

人々の生活と水辺は、過去から密接なつながりを持ってきた。現在では、水辺は人をほっとさせたり、和ませたりする存在になっている。そこで、水辺施設を周辺の建築物や環境と調和するよう、面的に整備を行う。水辺があることによって、街並み全体がうるおいあるものとなる取組みを行う。

戸田市内を見ると、戸田公園周辺には、ボートコースとそれを取り巻くように、表情豊かな艇庫が建っている。艇庫の建替えを行うときは、戸田市景観条例に基づく大規模建築物ガイドラインによって、建築物の誘導を行っている。ボートコース周辺を、人が集まり、楽しむことができる空間とするために、水辺を取り巻く景観形成を推進する。

#### **戸田公園周辺：ボートコースの東側エントランス整備、北側道路整備**

#### **《現状と課題》**

戸田公園にあるボートコースは市のシンボルとなっているが、戸田公園駅から戸田公園までの道順が分かりづらい、高い水門とフェンスやポールがあるため、ボートコースの入り口が見つけづらいなど、市民が近づきにくい問題がある。北側道路には、夾竹桃が生い茂っているため、レガッタの様子やボートコースの風景を見渡せない状況となっている。

そこで、案内サインを設置し、歩行者が自然に戸田公園に誘われるような仕掛けをつくる。公園の顔となるボートコースの東側エントランス周辺を拡張するなど、エントランスを分かりやすいものにする。また、ボートコース北側道路にウッドデッキを設置し、ボートコースを眺めながら、ゆったりと水辺を楽しむことができるような景観づくりを行う。

ボートコースは水の流れがないため、夏は臭いが発生するなどの問題がある。人が訪れたいくなるようなボートコースにするには、水質の改善が必要である。

## 「戸田公園整備例」



《ボートコース北側道路》



《エントランスと水門》

※「景観モデル地区(戸田市・戸田ボートコース  
周辺)推進プラン」から抜粋

### 《実施のための方法》

#### 県の取組み

- 環境空間の整備に合わせ、水辺と緑をネットワークで結ぶ。
- ウッドデッキの設置やフェンスの改修を図り、戸田公園の顔となるエントランス広場をつくる。
- 北側道路は鉄柵を排除し、テラスをコース側につくり、歩道とする。
- 電線・電柱を地中化し、水辺に映える街並みを形成する。

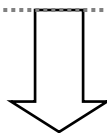
#### 市の取組み

- 戸田公園までの、案内サイン・誘導サインを設置し、いっぽん橋などの既存の橋を広げ、歩きやすいルートを設定する。
- 県に対して、上記整備の実施や水質改善に向けた積極的な働きかけを行う。

※参考資料「景観モデル地区(戸田市・戸田ボートコース周辺)推進プラン」

平成18年3月埼玉県県土整備部県土づくり企画室

#### ④. 水辺を利用した人々が集まるイベントの開催 (人と人が触れ合える場の形成)



##### 《コンセプトに基づく考え方》

水辺を、子どもからお年寄りまで、それぞれの立場で楽しく過ごせるように水辺でイベントを行い、人々が集まり、賑わいのある場を創出する。水辺のオープンカフェ、スポーツイベント、水辺のライトアップなどを実施し、市民が水辺で楽しむ仕組みをつくる。戸田の水辺施設の魅力を、市民が実際に参加し、利用することで、「住んでいて良かった」と思えることを目的とする。

戸田市内を見ると、水辺で遊べ、スポーツやライトアップ等のイベントが開催可能な場所として、戸田橋親水公園周辺、戸田ボートコース付近、すでに水辺のネットワークが完成されており、さらにその活用法が期待される喜沢のささぶねの路が考えられる。既存の施設を活用し、実現に向けて手段を講じる。

#### I. 戸田公園周辺：戸田橋親水公園・戸田ボートコース付近でのオープンカフェ

##### 《現状と課題》

戸田市のシンボルとなる魅力的な施設ながら、玄関口とも言える親水公園周辺は、一応の整備がなされているものの、緑が少なく殺伐としている。親水公園やボートコースで時間を過ごす人たちが、くつろげる場所がない。

そこで、水辺の眺望の良さを生かしたカフェを運営することで、遊びに来た人や周辺住民など、人が集まり新しい賑わいの場の創出をめざす。

《実施のための方法》

- 出店希望者を公募により選定する。
- 公共性・公益性に配慮すること、また地域における合意形成を図る。
- 実施に向けてP 6と同じ許可申請を必要とする。



戸田橋親水公園



後谷公園前



(例)  
オープン  
カフェの  
実施



## Ⅱ. ボートコースを利用したスポーツ水上イベント

### 《現状と課題》

ボートコースは、主に学生がレガッタの練習で使用している。一般の人はボート教室、カヌー教室などで使用するのみである。

そこで、レガッタに使用するだけでなく、Eボート大会など、気軽に、健康的に、楽しく体を使うスポーツイベントを開催して、戸田ならではの水辺資源であるボートコースへの関心を高める。市民がボートコースを訪れて楽しい場となる、きっかけ作りを行う。



### 《実施のための方法》

- ゴム素材の防災用Eボートを利用し、町会対抗、学校対抗などの大会を開催する。
- ボートは水面下のワイヤー等の障害をクリアするものが必要となる。
- 水面の利用については、埼玉県公園緑地協会へ許認可申請を必要とし、また日本ボート協会への利用料納付が必要となる。

実例：お台場防災Eボート大会（防災グッズの展示  
&体験会等も同時開催）



Eボート大会実施風景



Eボート競漕

お台場の防災Eボート大会は

- ①水辺の活性化
- ②人の交流
- ③防災意識の高揚
- ④学生交流の機会
- ⑤環境問題への関心を高める。

という5つの目標の下に開催されている。



### Ⅲ. 下戸田地区：季節のイルミネーションやライトアップにより人が集まる空間作り

#### 《現状と課題》

喜沢のささぶねの路は、かつての緑川の支流を再現し、竜神の広場、アリスの広場、一寸法師の広場の3つの公園が、水路として整備された水の流れによって、ネットワークされている。水が流れている時期は、子ども達が水に触れ合える場所として、人気が高い。

しかしながら、水が流れなくなる冬場（11月頃～）は、公園に作られたアリスやハンプティダンプティなどの人工的なオブジェや、水の流れなくなった池に枯葉やごみがたまっていることにより、冷たさと寂しさを感じさせ、人もまばらな公園となっている。

整備は完成された感のある、喜沢のアリスの広場を中心とした水辺空間であるが、改良することで、季節を問わず人々の賑わいを創出する。

#### 《実施のための方法》

●年間を通して水が流れるよう改修する。冬場の凍結した水辺で、氷で遊ぶことも子どもたちの心を楽しませる。



一寸法師の広場



アリスの広場



●水中イルミネーション及びライトアップにより、クリスマス等をイメージするような冬場の水辺を演出する。



竜神の広場



竜神の広場脇水路

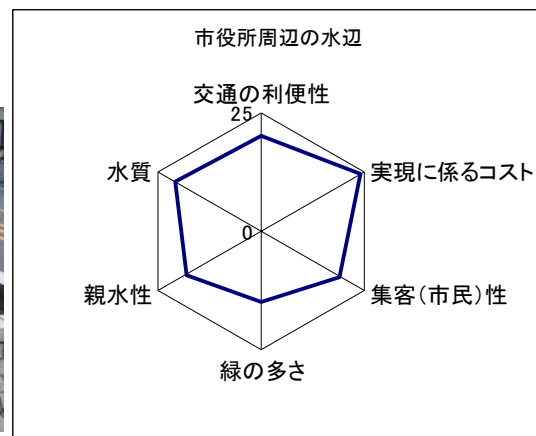


## 第4章. 参考資料：戸田市の水辺資源

### ①市役所周辺の水辺(上戸田4丁目水路 後谷公園 東町公園)

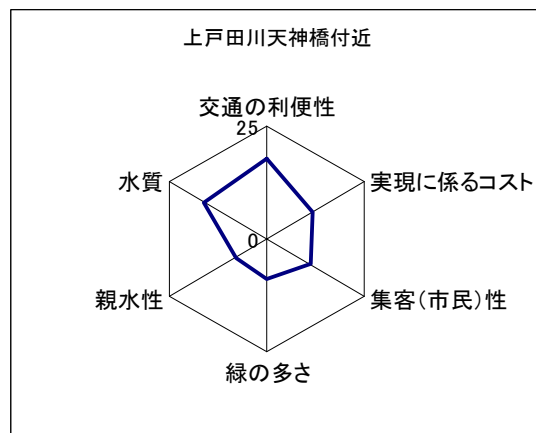
後谷公園の東南の角に広場の整備計画があり、活用エリアの拡大が見込める。後谷公園を中心に面的な整備を行い、水辺のまちづくりのコンセプトが実現可能となる。

※グラフは市内視察結果の印象を標記



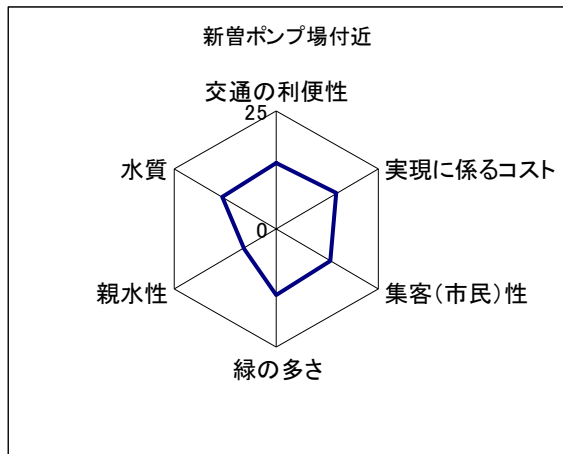
### ② 上戸田川 天神橋付近上戸田川浄化施設

浸水などの防災対策の観点等から整備が進められている。現在は、整備の途中であり、今回の水辺のまちづくりに取り入れる箇所としてはむずかしい。



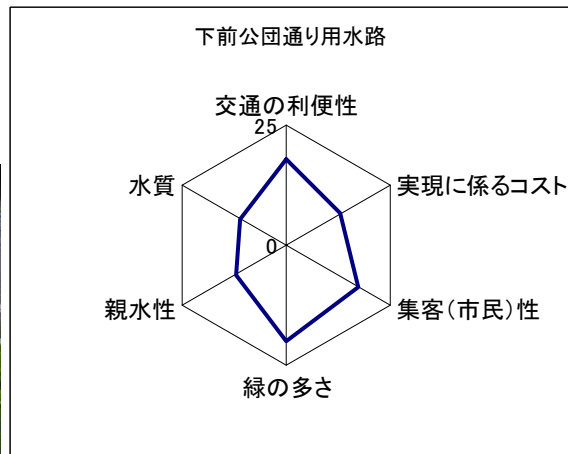
### ③新曽ポンプ場付近(上戸田川終点、菖蒲川始点)

水質の向上により、魚が泳いでいる。



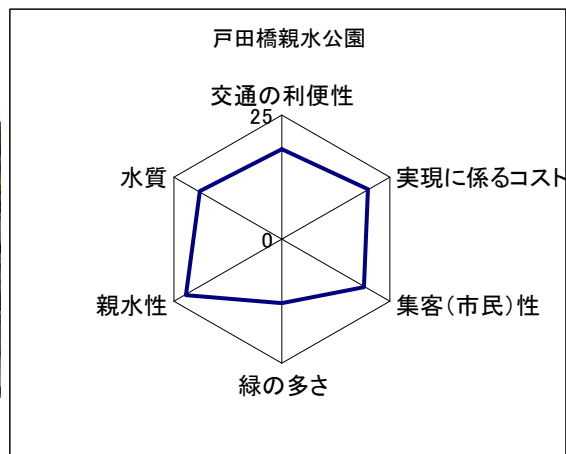
### ④下前公団通り用水路

ミツカン酢工場移転後、用水路整備を跡地利用と一体になり、行うことが考えられる。



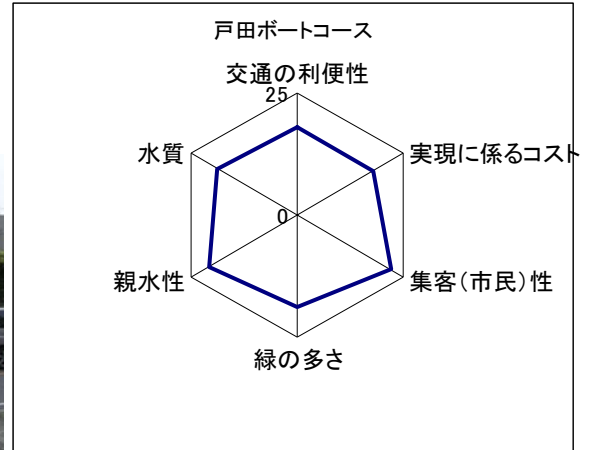
### ⑤戸田橋親水公園

今のままではもったいない。ボートコースと一体になった整備が望まれる。緑を増やす、カフェを開くなど、人が楽しめる場所として整備が必要である。



### ⑥戸田ポートコース

入り口付近の検討。ポートコース北側道路を散策歩行空間とする。ポートコースで、戸田市主催のボートやカヌー大会等を開催する。

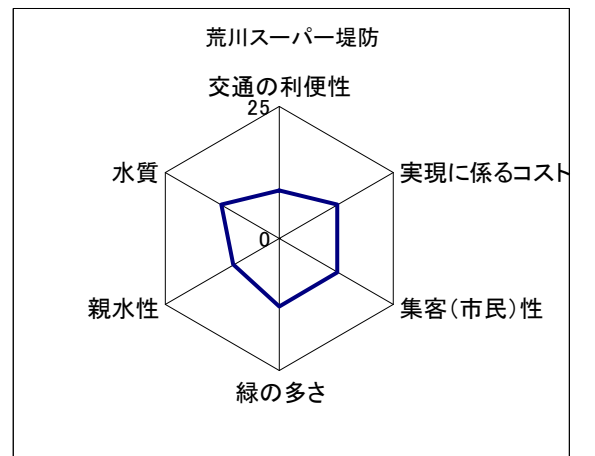


### ⑦荒川スーパー堤防

開放感のある空間として活用する。

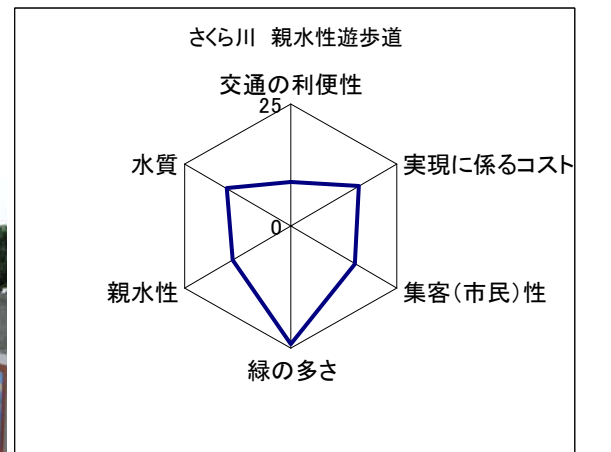


凡例   戸田公園地区スーパー堤防整備範囲  
  高規格堤防特別区域範囲



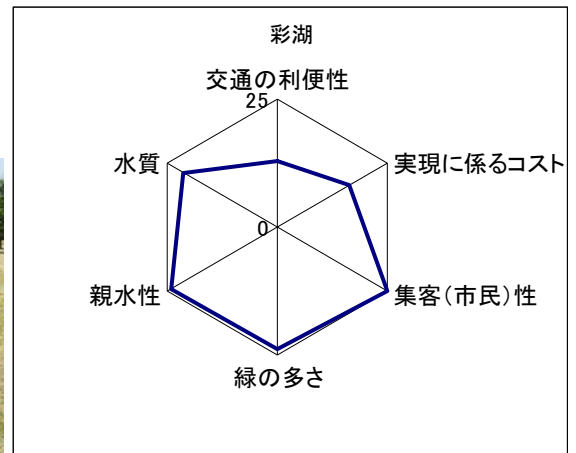
### ⑧さくら川 親水性遊歩道 せせらぎ遊歩道

さくら川の遊歩道を延長する。



### ⑨ 彩湖

活用法として、ウィンドサーフィンやカヌー大会、自転車ロードレースなど、レクリエーションやスポーツイベントを開催することが考えられる。

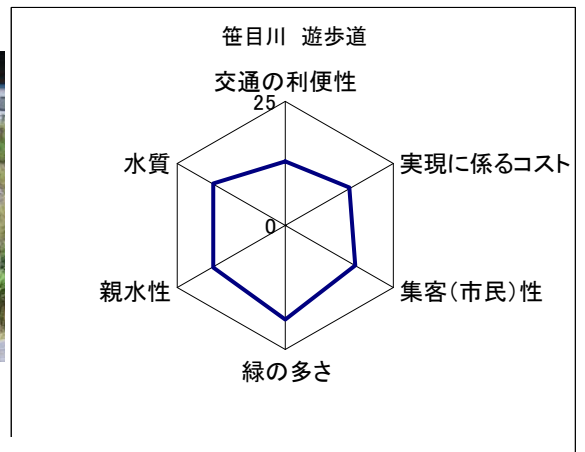


### ⑩ 笹目川 浦和南高校付近の遊歩道 笹目川遊歩道

さいたま市側は、多自然型護岸で散歩道が整備され、楽しく過ごせる水辺となっている。戸田市側も水に近づき、触れられるという親水性を持った川として整備していく。



《さいたま市側護岸整備》



《戸田市側護岸整備》

## 第5章 戸田市まちづくり戦略会議

### 1. 委員および会議開催状況等

#### (1) 委員

所属部	職名	氏名	備考
総合政策部	次長	中村 秀一	会長
総務部	次長	高野 勉	
市民生活部	次長	佐藤 勝巳	
福祉部	次長	松岡 尚幹	
都市整備部	次長	本田 良夫	副会長
教育委員会	次長	萩原 秀春	

○事務局・・・ 総合政策部 行政経営課

#### (2) 会議開催状況

平成19年度に6回にわたる会議を開催した。開催状況は以下のとおり。

会議名	第1回まちづくり戦略会議
開催日時	平成19年 5月29日(火) 14時00分から15時15分
開催場所	市役所5階 501会議室

会議名	第2回まちづくり戦略会議
開催日時	平成19年 6月28日(火) 14時00分から16時40分
開催場所	市役所5階 501会議室 ※市内視察の実施

会議名	第3回まちづくり戦略会議
開催日時	平成19年 8月 6日(火) 15時00分から16時40分
開催場所	市役所5階 501会議室

会議名	第4回まちづくり戦略会議
開催日時	平成19年10月15日(月) 9時30分から11時15分
開催場所	市役所5階 501会議室

会議名	第5回まちづくり戦略会議
開催日時	平成19年11月16日(金) 9時30分から11時00分
開催場所	市役所5階 501会議室

会議名	第6回まちづくり戦略会議
開催日時	平成19年12月19日(水) 9時00分から10時40分
開催場所	市役所5階 501会議室

### (3) 水辺の活用事例視察

[視察先] 日本橋川～隅田川～神田川

[視察内容] 神田川をテーマに、河川の役割、水質改善、自然環境を学ぶ水辺のエコツアーへの参加

[視察日時] 平成19年10月31日(水) 13時00分から17時00分



環境にやさしいエレキボート



日本橋川から見る日本橋



神田川から見る聖橋